

■第7回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
1	あごう やすこ 吾郷 康子	雲南市 木次町	<p>長年にわたり、木次町及び雲南市男女共同参画推進委員会会長、島根男女共同参画センター業務評価委員として男女共同参画推進並び地域福祉の推進に貢献している。</p> <p>「うなんさんさくらプロジェクト」の代表も務め「さくら」を活用するための基盤整備・活用方法の検討に取り組んでいる。</p> <p>「雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会」委員長として市民参加創作劇の上演を続けている。</p> <p>さくら染め「木花工房」代表として作品を通じて地域活性化、地域力の醸成にパートナーとともに貢献している。</p>	<p>人権問題及び地域コミュニティ形成にお互いの特性を尊重し、協力しあって積極的に地域活動を行っている姿は地域住民の目にとってもほほえましく映り多くの方々がご夫婦の活動に協力して地域づくり活動を実践している。</p>	<p>新市いきいき会 会長</p>
	あごう ひろゆき 吾郷 廣幸		<p>長年にわたり、木次町及び雲南市議会議長(議員)として、また、木次町同和教育推進協議会会長、雲南市人権・同和推進協議会会長として、人権同和教育振興や地域福祉の進展に尽力。</p> <p>「日本桜の名所100選」認定の斐伊川桜並木を擁する「雲南市さくらの会」会長として、日本一のさくらのまちづくりを目指し桜樹保護育成だけでなく、さくら染め・さくら食品等さくらを地域活性化、地域力の醸成にパートナーとともに貢献している。</p>		
2	みやもと みほこ 宮本 美保子	浜田市 金城町	<p>平成6年から食生活改善推進員として行政の保健活動と連携し、地域に密着した栄養改善活動を展開している。平成21年から島根県食生活改善推進協議会会長を務め、会員からの信望も厚く、リーダー的役割を担っている。</p> <p>浜田市消費者問題研究協議会金城支部長として、消費者の生活向上を目指した悪質商法防止活動に取り組んでいる。</p> <p>さらに「消防隊」に加入し、防火活動の推進と「防災士」の資格を有し防災活動にも関わり、地域活動に積極的に参加している。</p>	<p>夫婦ともに浜田圏域健康長寿しまね推進会議に属し、健康意識が高く協力し合って、健康づくり事業を公民館活動の場に積極的に取り入れ、地域に貢献している。</p> <p>住民総参加の「さざんか祭り」では、夫婦で手打ちそばを出展するなど、地域活動に積極的に参加している。</p> <p>また、新しいコミュニティを形成し、学びの場を提供する異年齢交流事業(大学生と小学生の交流)として2泊3日の宿泊研修生活支援など夫婦が協力して取り組んでいる。性別による役割にとらわれず、お互いを尊重し、協力し合う姿は、ほほえましく応援したくなるようなパートナーである。</p>	<p>浜田市長 (人権同和教育啓発センター)</p>
	みやもと ふみお 宮本 文雄		<p>平成19年から久佐公民館長として、子どもから高齢者を対象に生涯学習振興のため積極的に各事業に取り組んでいる。</p> <p>また、地域の健康づくりの推進を目的とした「久佐地区健康づくり会議」の設立にかかわり、浜田圏域健康長寿しまね推進会議に属し、行政と連携した健康づくり活動を行っている。</p> <p>さらに、はまだエコライフ推進隊金城支部長として、地球にやさしい環境づくりを目指し、マイバッグ持参運動、ゴミ減量化に取り組み、地域への貢献度が高い。</p>		

■第7回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
3	くりはら 栗原 イチ子	邑智郡 美郷町	平成15年から大和加工センター利用者組合(特産品加工グループ)をつくり活動を行い、進さんも退職を機に加工センターを手伝い、夫婦そろって特産品の加工、販売、開発にとりくんでいる。 地区婦人会でも会の中心として、エコ活動やJR駅花壇の手入れなど環境美化活動の取組を積極的に行っている。 また、平成7年に大和村神楽同好会に入会。化粧方を担当し、団員の化粧や裏方として神楽団をサポートしている。夫である進さんと共に各地域、町外又は県外での公演活動を行う。都神楽団のメイクを継承していくため進さんと共に次世代育成活動を行っている。	地元の伝統芸能である神楽を継承していく上でご夫婦が同じ思いで後継者育成活動に取り組んでおり、この活動により子どもたちが神楽団に入団し、また、高校卒業後も神楽を続けるために通勤可能な職場で働くなど地元に残り、10代から70代までの幅広い団員構成で神楽を演じている。 神楽は夫に誘われ、特産品の加工は妻に誘われと、おのおのが取り組んでいた活動を理解し、興味を持ち、協力し合っている。 神楽の公演や、特産品の加工、販促イベントなど、どこへ行くのも夫婦そろって参加している。	美郷町長 (企画課)
	くりはら 栗原 すすむ 進		平成2年に大和村神楽同好会(現:都神楽団)に入会、同好会では会長を務める。囃子方の大太鼓を主に担当、また事務方として公演スケジュールの調整等を行うなど、神楽団の中心的存在。神楽の後継者育成のため、子どもたちに神楽指導を行っている。 また、地区の連合自治会長を務め、地域活性化のために「伝統芸能と光の祭典」や、全国から参加者を募集して実施した「尺鮎釣り大会」などを企画運営した。神楽と竹灯籠のイベントである「伝統芸能と光の祭典」は平成22年にしまね景観賞・優秀賞を受賞している。 また、仕事の経験を活かし、自治会の課題である地域防災についての計画書を作成中。		
4	いわもと 岩本 かずえ 一恵	益田市 桂平町	結婚以来、夫と共に「しめ縄作り」や「かずら細工」をおこなっていたが、1991年から、「しめ縄作り」の規模を拡大していくと、夫は海外や全国を忙しく飛び回るようになり、育児や家事そして仕事にと忙しく働き夫を陰で支えてきた。 平成16年から始めた農家民泊では、女将さんとして「いわみの藁屋」を切り盛りし、世界各国や日本各地から訪れる多くの若者たちの、いなかの母親役として、また地域住民との交流のパイプ役としての手腕を発揮し、大いに地域活性化に貢献されている。	農家民泊「いわみの藁屋」を中心にして、ウーフ(WWOOF)というホームステイ制度を利用して訪れる国内はもとより世界各国の若者たちの、優しい田舎の「お父さん・お母さん」役として、「女将さん・番頭さん」として二条の里の人の温かさ、田舎の自然の良さを味わっていただく、案内人の役を担っている。	益田市 二条地区 振興センター長
	いわもと 岩本 のりあき 憲昭		1971年から「しめ縄作り」「切り花栽培」に取り組み、1991年から「しめ縄作り」の規模を拡大させ、地域の高齢者を積極的に雇用して、内職の仕事を生み出し、交流を図っている。 また、そのデザインも自分で考え、新しい時代にマッチした形を常に追求しつつ、都会地のデパートや問屋、近隣市町村のスーパー等への販路拡大に努めている。 今後の地域活動推進と、地域活性化力アップのためには、地域に欠かせない人的財産である。		

■第7回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
5	つもり 津森 まみえ	出雲市 東福町	出雲市青少年育成市民会議、久多美地区青少年育成協議会の委員として、地域の子どもたちの健全育成に尽力している。 小学生対象の放課後児童クラブの指導員として、8年間に亘り活動中で児童と触れあつての指導は保護者から厚い信頼を得ている。 久多美コミュニティーセンター自主企画事業の青少年部員として小学5年生対象の“稲作体験～もち米作りに挑戦～”では年間を通して児童と深く関わり収穫の喜びを一緒に学んだ活動となった。	ご夫婦共同の活動として、小学生を対象に絵本の読み聞かせを行い、読書の楽しさ・大切さを指導されている。 このように、お互いを尊重し協力しながら活動されている姿は多くの人々の見本となっており、またお二人とも温厚実直な人柄で人望も厚く地域活動になくてはならないパートナーである。	久多美コミュニティーセンター長
	つもり 津森 ともゆき 朋之		主任児童委員として10年活動中で、未就学児のサークル行事の企画運営の中心となって活躍。中でも自ら行われる風船アートは子どもたちとの交流に不可欠なものとなっている。 また、コミュニティーセンターの自主企画事業の福祉部長として、年4回高齢者対象のデイサービス『はやさめサロン』を実施。遠足を含め季節の催しを中心とした温かいもてなしなど、企画力にも優れ、福祉、ボランティア活動への理解力も深い。		
6	ほんま 本間 えみこ 恵美子	松江市 苧町	島根県立八雲立つ風土記の丘所長、NPO法人出雲学研究所副所長。本県の女性学芸員の草分け的存在であり、出雲地方の歴史や文化について、幅広い観点から基礎的・総合的に研究するとともに、地域の歴史的資源を地域内外の方々に楽しく学び誇りを持って生活していただけるような機会の提供に取り組んでいる。 また、順一さんが立ち上げた松江城鉄砲隊で活動を行い。平成23年には全国で唯一の女性だけの鉄砲隊である松江城姉さま鉄砲隊を結成、隊長を務め演武活動を行っている。	平成21年の松江城鉄砲隊の発足までは、夫婦で丸亀、岩国に出かけ、火縄銃の演武訓練、火縄銃の分解手入れの指導を受けた。 また、夫婦が中心となり、隊員一同で松江藩の素晴らしい文化を多くの方々に伝承しようと、松江市内はもとより、安来、隠岐の島、丸亀、岩国などにおいて堀尾公の時代からの砲術演武を行っている。 平成23年はロータリークラブや商工会議所などに招かれ、夫婦による火縄銃を抱えての漫才公演が好評を博している。夫婦ともにこれからの伝統文化の継承に努力していきたいと意欲的であり、今後の活動も大いに期待できる。	松江市 観光振興部長
	ほんま 本間 じゅんいち 順一		会社役員のかたわら松江市文化協会の加盟団体「松江藩の文化を愛する会」を母体とする「古式銃研究塾(藤岡大拙塾長)」の事務局長として、歴史や文化、古式銃の構造、中・近世における古式銃と松江藩の関わりなどについて研究を重ねている。 松江城鉄砲隊の統監として、松江開府400年祭のイベントや各地での催しなど積極的に出演し、松江藩の鉄砲文化の顕彰並びに継承に尽力している。		